



# 北関東-34兆円経済圏-を支える「港」

～茨城港・横浜港・川崎港から世界へつなぐ～

令和8(2026)年2月18日  
横浜川崎国際港湾株式会社

日本は **島国** です

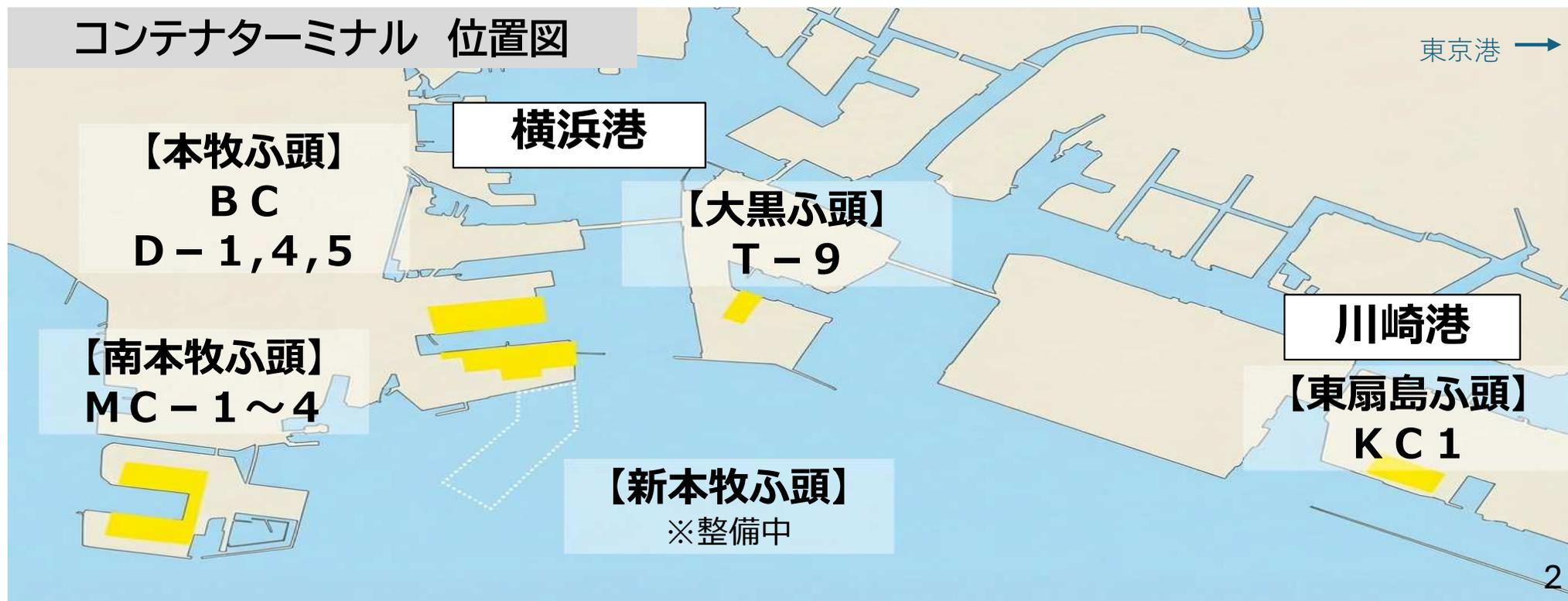
島国日本では 海外とのモノのやり取りは  
すべて **港** から

	港湾	空港
貨物量 (約8億トン)	99.6	0.4
貿易額 (約211兆円)	7	3 (71.9:28.1)

(出展：『数字でみる港湾2025』P24我が国の貿易量・貿易額の構成費 より作成)

## 2. 横浜川崎国際港湾株式会社 (YKIP) について

社名	横浜川崎国際港湾株式会社(通称:YKIP)	設立	平成28(2016)年1月12日
株主	国:50% 横浜市:47.25% 川崎市:2.25% 民間銀行:0.5%		
事業	<p>(国際コンテナ基幹航路の維持・増加等に向けた各種事業)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• コンテナターミナルの借受者の選定</li><li>• 船舶の大型化に対応したガントリークレーンや管理棟等の整備</li><li>• コンテナターミナル借受者に対する用地や施設等の一括貸付</li><li>• 集貨等に関するユーザーへの各種インセンティブ支援</li><li>• 国際コンテナ基幹航路の誘致 等</li></ul>		



## ■ 県内総生産34兆円を誇る日本の成長エンジン

地域	県内総生産 (名目) ※GDP相当	一人当たり所得 全国順位
栃木県	約9.6兆円	6位
茨城県	約14.6兆円	3位
群馬県	約9.8兆円	5位
全国	約595.8兆円	—



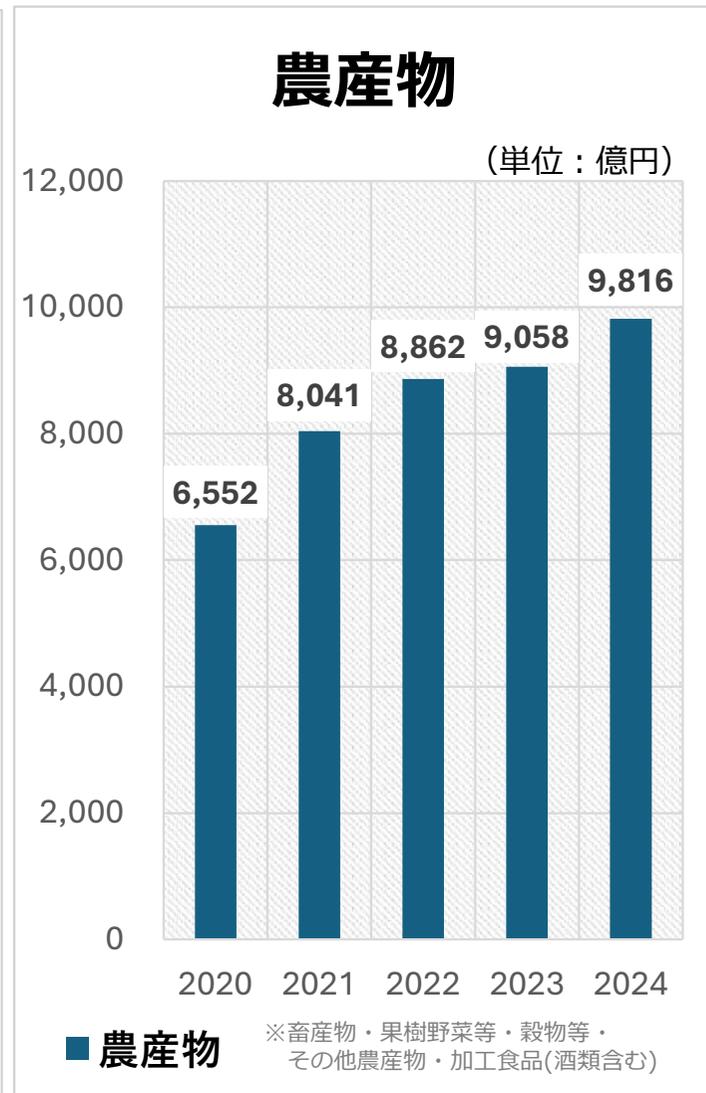
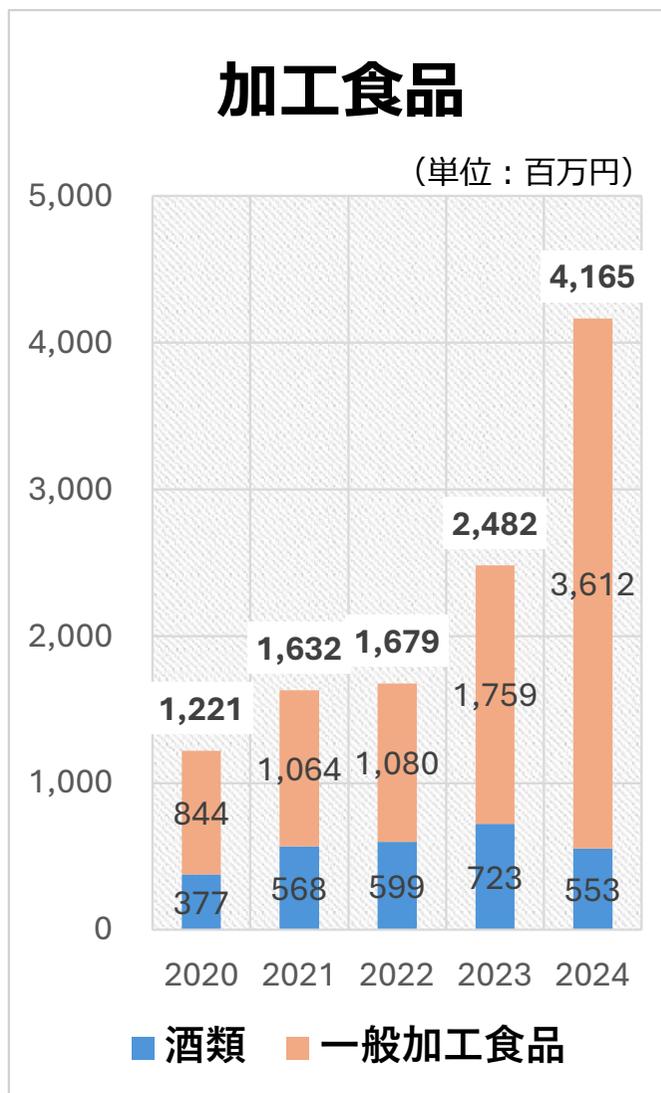
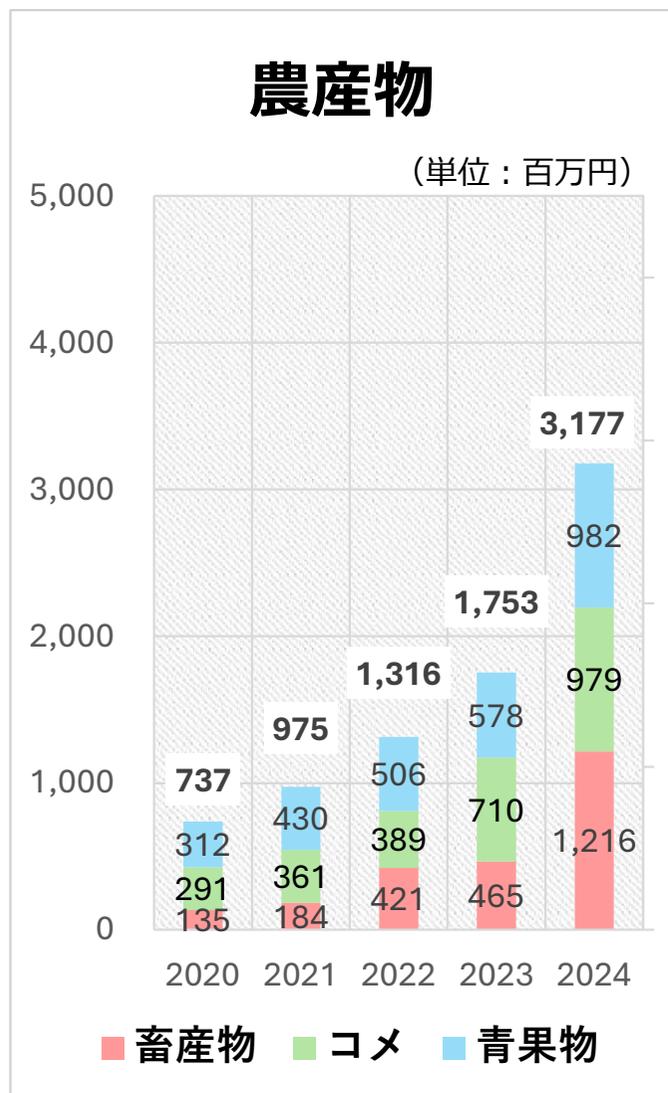
\*2022年度統計

# 3-2.茨城港：食の輸出の最前線 ～農産物輸出～

## ■農産物の輸出実績

【茨城県】 2024年度輸出額：73億4,225万円

【全国】



(出展：茨城県「2024年度 茨城県農産物・加工食品の輸出実績」より作成  
<https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/eigyo/global/documents/2506yushutsuzisiseki.pdf>)

(出展：農林水産省「2025年の農林水産物・食品の輸出実績」より作成  
[https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu\\_kokusai/kikaku/260203.html](https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/kikaku/260203.html))

## 【 栃 木 県 】

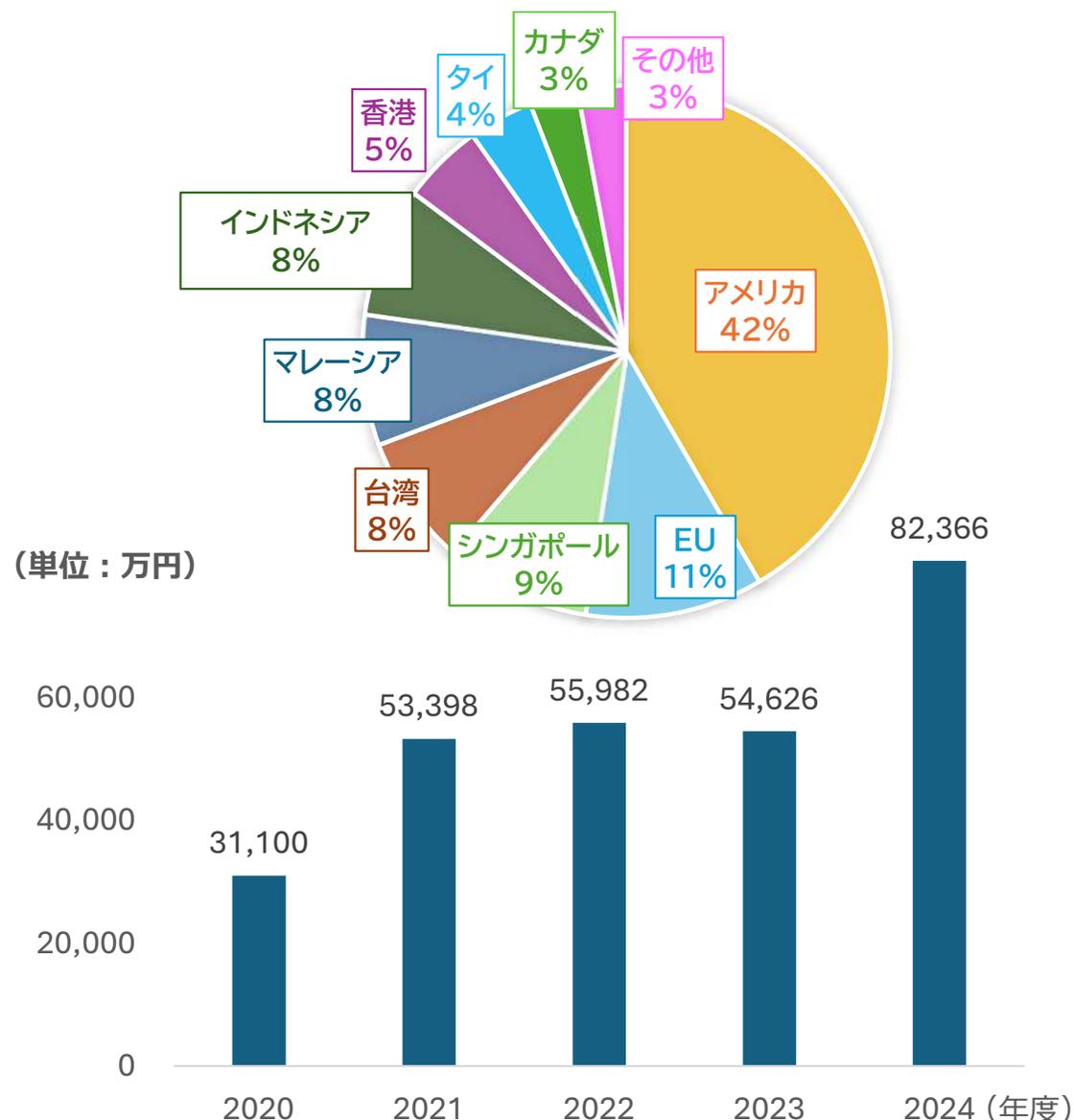
2024年度輸出額

8億2,366万円(前年度比151%)

### 主な輸出品の内訳

品目	輸出額	割合	主な輸出先
牛肉	5億6,157万円	68.2%	アメリカ、シンガポール
花き	1億605万円	12.9%	EU、アメリカ、中国
いちご	6,577万円	8.0%	台湾、タイ、香港
コメ	5,299万円	6.4%	カナダ、アメリカ、香港
なし	1,222万円	1.5%	マレーシア、インドネシア、シンガポール
その他	2,506万円	3.0%	

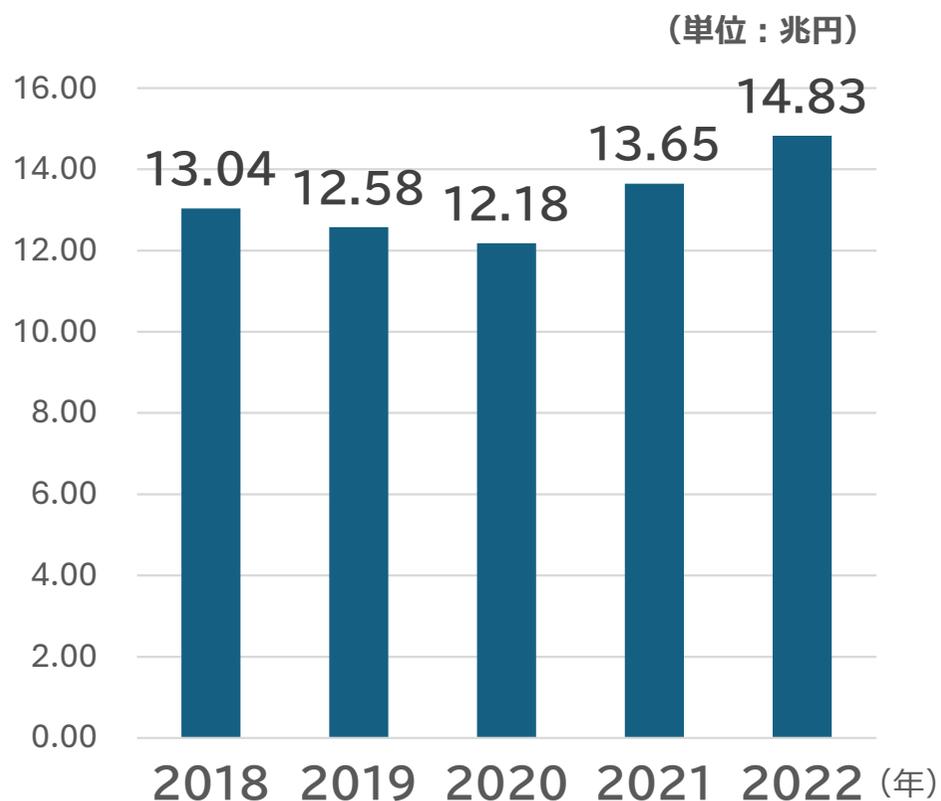
輸出額の推移及び国別輸出額の割合



## ■ 製造品の出荷実績

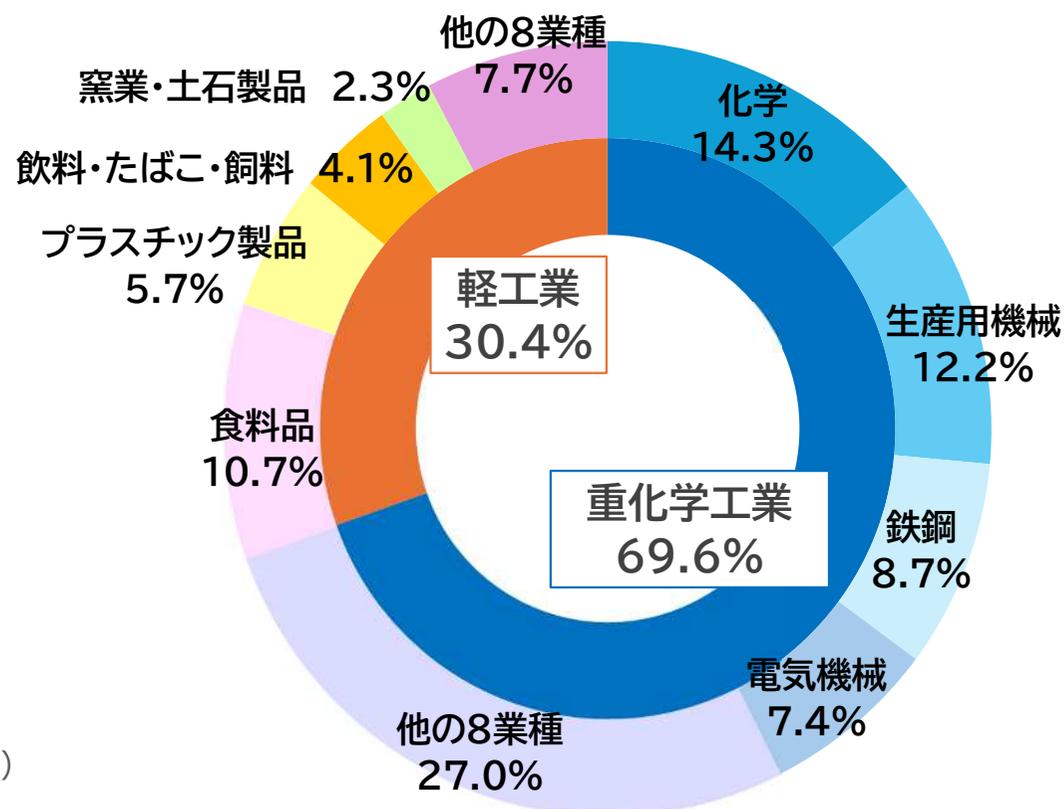
### 【茨城県】

製造品出荷額等推移



### 【茨城県】

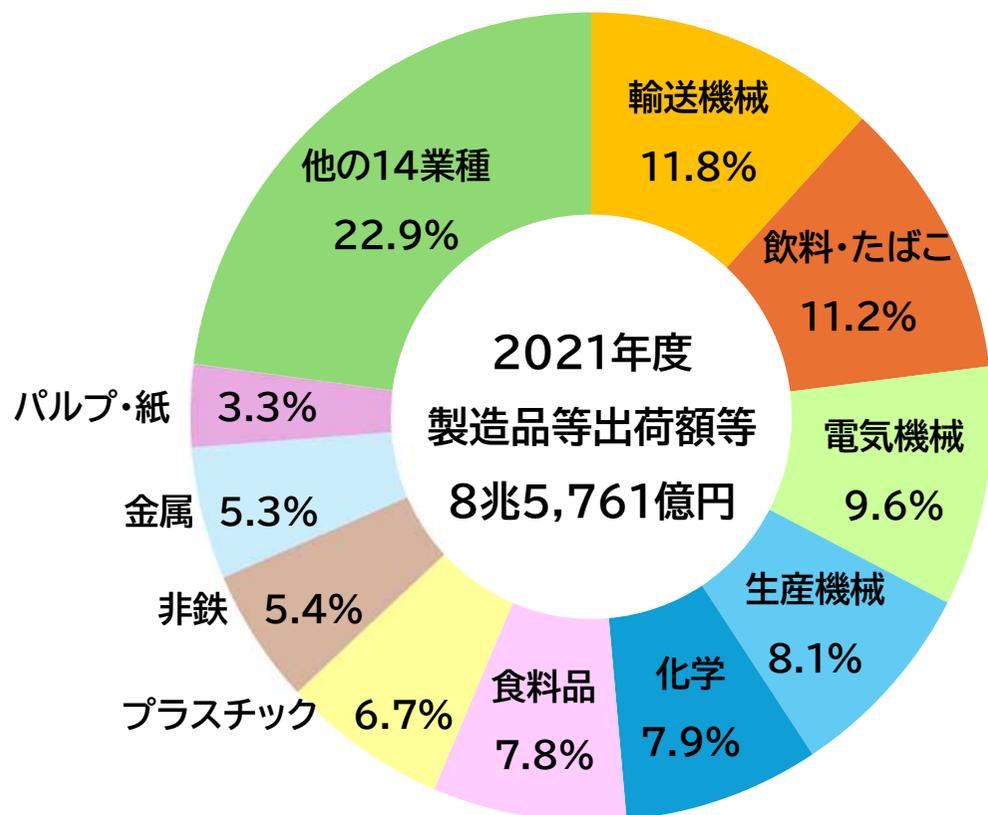
製造品出荷額等割合 (2022年実績)



(出展：茨城県「いばらきの工業団地」茨城県の魅力 立地環境 より作成 <https://www.indus.pref.ibaraki.jp/miryoku/location/>)

## 【栃木県】

### 製造品出荷額等割合（2021年度実績）



(出展：栃木県「企業立地に関するご案内」とちぎの産業 より作成  
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/kogyo/location/industry.html>)

## 【全国】

### 製造品出荷額推移



(出展：内閣府「地域課題分析レポート2025年8月」図表1-4 製造品出荷額推移、  
 経済産業省「経済構造実態調査」「経済センサス」「工業統計調査」より作成)

# 3-5.茨城港：首都圏の東玄関を支える最適アクセス



### 【物流の効率化】

少子高齢社会の到来により、持続的成長を図るために、さらなる物流の効率化が求められている

→ 物流効率化法の改正により  
物流事業者に加えて荷主も  
対応が必要に

### 【環境への対応】

社会の環境意識の高まりにより物流にも脱炭素化が求められる

→ 全区間陸送によるCO2排出量の  
多さが企業の負担に

### 【ドライバー拘束時間の厳格化】

2024年4月の法改正により、トラックドライバーの拘束時間の規制が強化

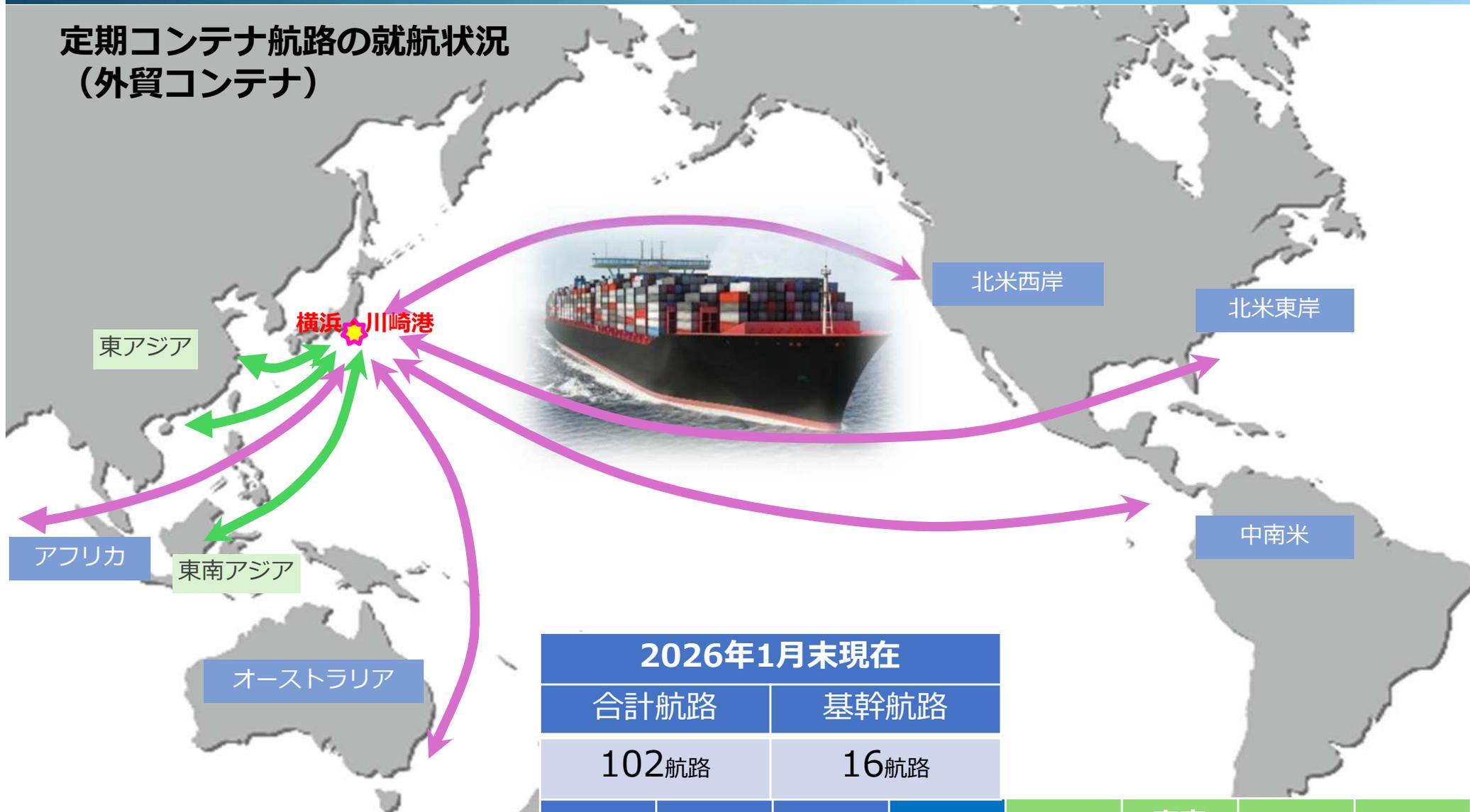
→ 栃木県～京浜港（東京・横浜）間の  
長距離トレージの負担が増加





## 4-2.横浜・川崎港を活用するメリット～充実した国際航路網～

### 定期コンテナ航路の就航状況 (外貿コンテナ)



2026年1月末現在							
合計航路				基幹航路			
102航路				16航路			
北米	南米	豪州	アフリカ	中国	東南アジア	韓国	その他
7航路	6航路	2航路	1航路	38航路	38航路	9航路	1航路

\*2026年1月現在

## (1)北米西岸 航路 寄港地

### 就航サービス

船社	サービス名	投入船隊	備考
CMA CGM	EX1	5,600TEU*7	西航
Hapag/Maersk	WC3/TP1	7,800-9,700TEU*8	東航
Hapag/Maersk	WC4/TP5	7,800-8,800TEU*7	西航
Hapag/Maersk	WC5/TP7	6,900TEU*6	西航

ランバートル



### 寄港地別最短所要日数

港	日数
プリンス・ルパート (カナダ)	12日
バンクーバー (米)	20日

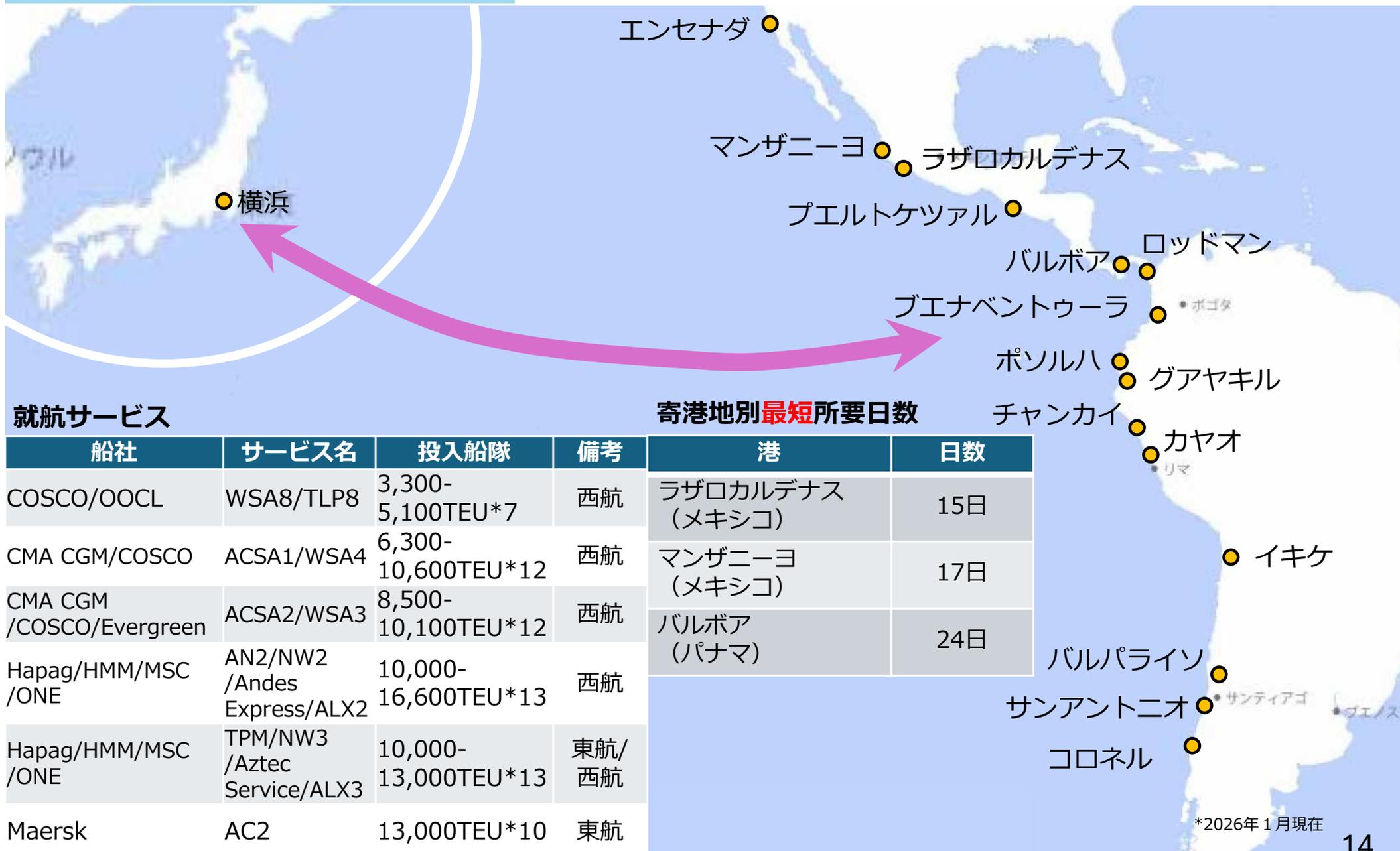
\*2026年1月現在

## (2)北米東岸 航路 寄港地



\*2026年1月現在

## (3) 中南米西岸 航路 寄港地



\*2026年1月現在

# 4-6.横浜港を活用するメリット ～北米・中南米への直航便～

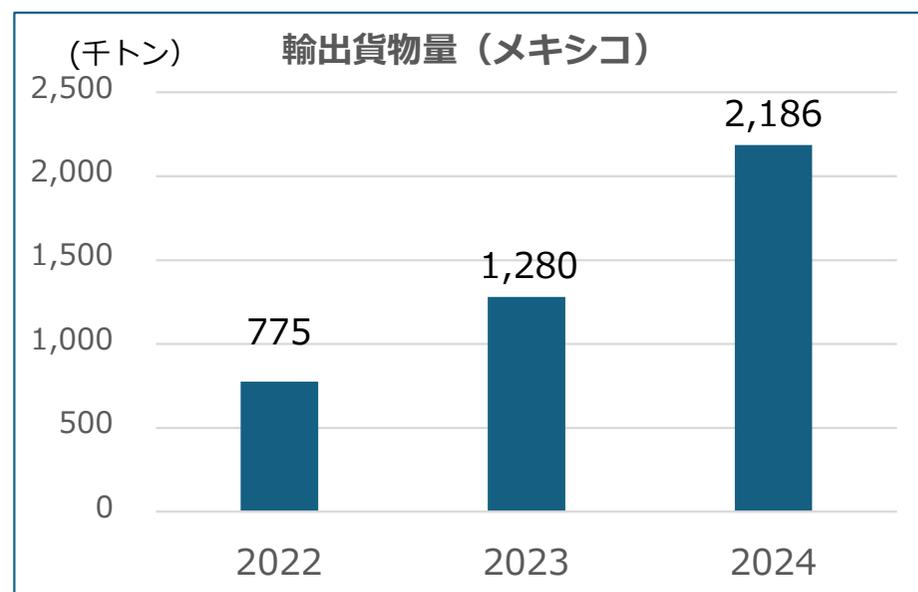
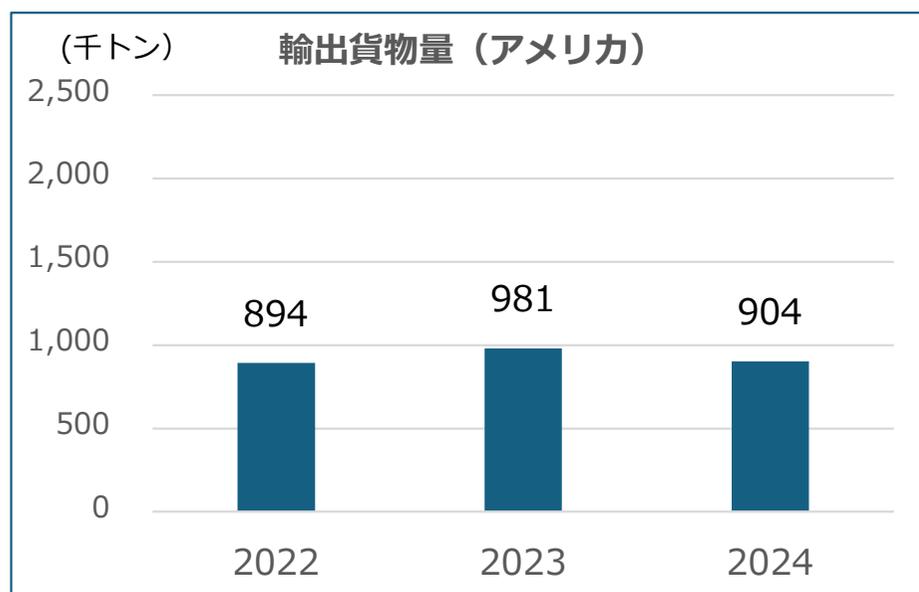
## 横浜港からの輸出状況

■アメリカ向け貨物 品目別 (単位：千トン)

	2022	2023	2024
自動車部品	338	281	237
産業機械	116	211	230
化学工業品	86	76	73
家具装備品	49	28	20
ゴム製品	46	101	82
その他	259	284	262
計	894	981	904

■メキシコ向け貨物 品目別 (単位：千トン)

	2022	2023	2024
自動車部品	437	543	733
産業機械	77	123	128
電気機械	77	146	353
ゴム製品	41	57	77
化学工業品	37	47	74
その他	105	363	821
計	775	1,280	2,186



## 4-7.横浜港等を活用するメリット ～大型物流施設や倉庫群の充実～

- ・コンテナターミナルだけでなく、物流を支える大型物流施設や倉庫群も充実
- ・危険物や小口貨物など、多様な貨物への対応が迅速かつ確実



## ■ 国際フィーダー・鉄道輸送への転換促進支援

### <従前>

- 対象道県所在港湾から海外港湾に直接輸出入されている貨物（海外港湾でトランシップ含む）
- 対象道県を発着し、京浜港まで陸上トラック輸送されている貨物

転換

### <横浜港経由へ転換>

- 対象道県所在港湾から国際フィーダー（内航船）
- 対象道県所在鉄道駅を発着する鉄道輸送（横浜本牧駅、本牧埠頭駅、横浜羽沢駅経由）

**1TEUあたり5,000円を支援**  
(1案件あたり上限500,000円)

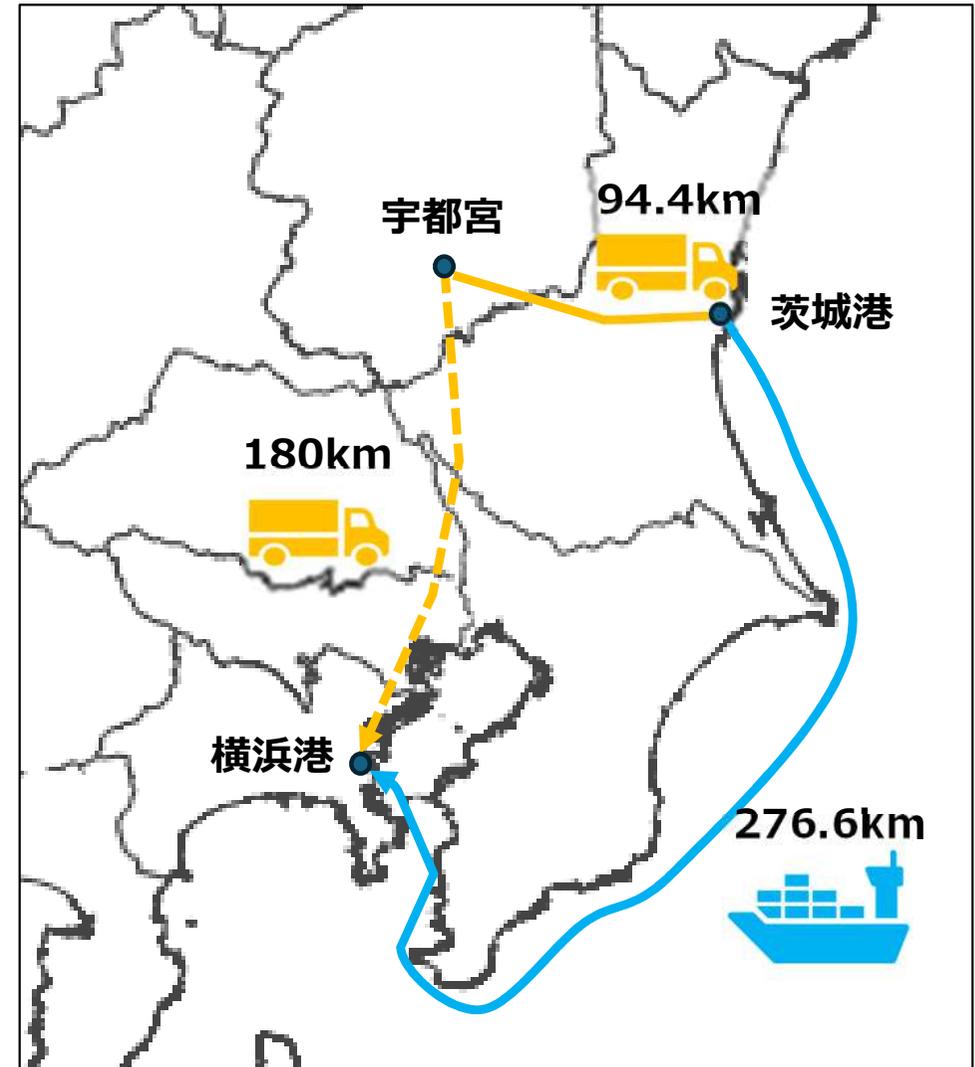
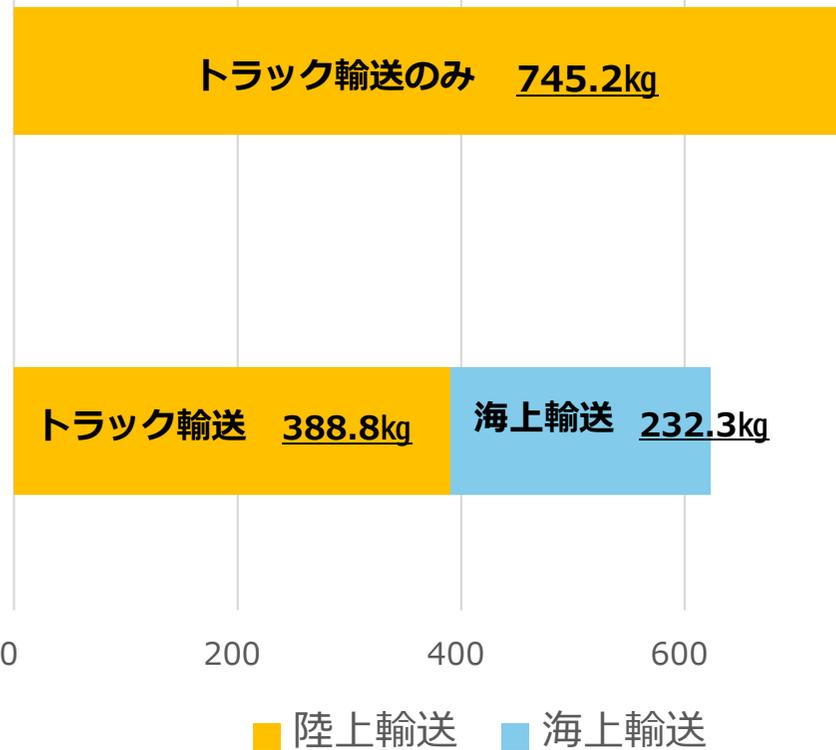
2025年度単価



詳細はYKIP営業部へ  
お問合せください

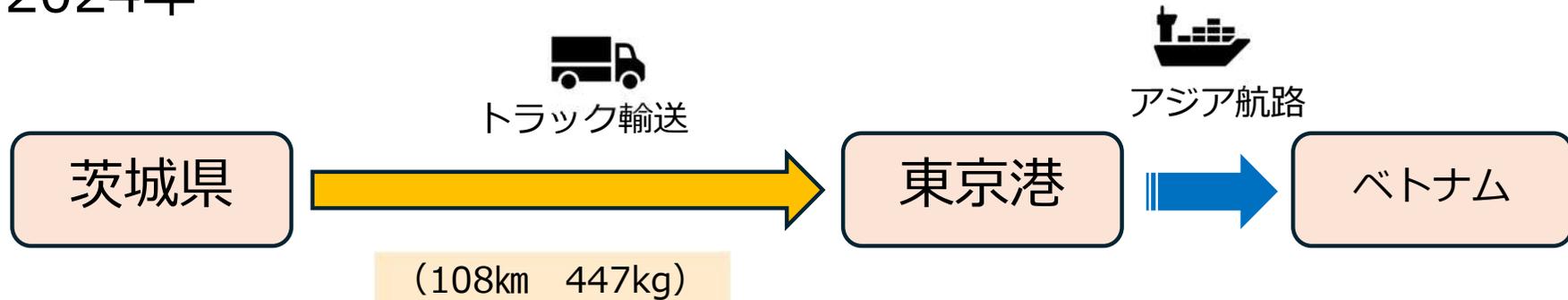
## 輸送量あたりのCO2排出量

宇都宮～横浜間の距離で試算  
国土交通省総合政策局資料から作成  
CO2排出原単位 [kg-CO2/トンkm]2023年度

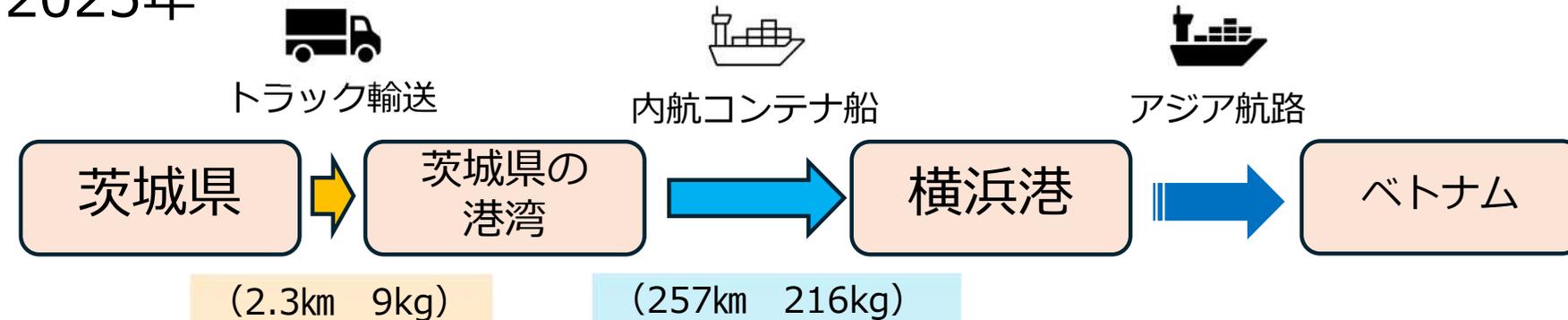


## ■ 実例（飼料の輸出）

2024年



2025年



kg-CO2/トンkm

# モーダルシフトによりCO2排出量が約1/2に!!

北関東三県（34兆円規模）の経済圏、交通アクセス、国内外の航路網を俯瞰的に捉え、港を通じて日常生活や日本の輸出産業を支えていく。

- **茨城港等の活用**

北関東三県の貨物をトラック等で茨城港や内航拠点へ集貨。

- **国際フィーダー航路の活用**

環境にやさしい国際フィーダー航路を活用し、横浜港等に接続。

- **横浜港における国際基幹航路等の活用**

高い定時性を誇る北米向け直航便や、日本唯一の中南米西岸直航便、充実したアジア航路ネットワーク（85航路）等を活用

### 日常生活や高付加価値の貨物輸送を支える航路ネットワーク

『国際フィーダーを活用した横浜港等への接続』

+ 『高付加価値な直航航路』

+ 『アジア域内との多頻度・多拠点での航路接続』

⇒サプライチェーン全体の脱炭素化を加速、輸送品質も保証

# ～茨城港・横浜港・川崎港から世界へつなぐ～

物流の効率化や環境の変化に伴う課題解決等、  
お気軽にお問合せください

横浜川崎国際港湾株式会社（YKIP）営業部営業課  
TEL 045-680-6583

Email: [sales@ykip.co.jp](mailto:sales@ykip.co.jp)  
Website: <https://www.ykip.co.jp/>

